



「伊丹まちなかバル」の人気店の行列前で突然始まる「伊丹オトラクな一日」  
(本文中に関連記事があります)

## 目次／contents

### 特集「まちづくりと地域密着型イベント」…………… 2

- ・ まちなかアートが引き出す「場」の力／岡本壮平
- ・ 三方良しの「伊丹まちプラ '09」／中塚一

### ひと・まち・地域…………… 5

- ・ 「宮塾」好評開講中です／坂井信行
- ・ 注目を浴びる事業仕分け／田口智弘

### きんきょう…………… 8

- ・ 簡易宿所（ドヤ）という地域資源の活用／岡崎まり
- ・ 「まいど！東大阪」が石切参道に開店！／高田剛司
- ・ 学校からはじまるエコなまちづくり／原田稔
- ・ 私のしごと館問題とけいはんな学研都市／杉原五郎
- ・ 近況 10月の報告／三輪泰司
- ・ 尾張名古屋城下町の風景を訪ねて～尾張名所図絵の今昔を巡る②  
／尾関利勝

### メディア・ウォッチ…………… 15

- ・ 「世界写真機にARをみる」／廣部出

### まちかど…………… 16

- ・ 懐かしさにあふれる「昭和の町」／絹原一寛



様々な分野のマスタープランやアクションプランの策定の過程で、「話し合っただけでは何なので一度やってみましょうか?」や「ハードではなくソフトが大切」、「市民の主体的な活動を広げていかないと」等の意見が交換される場面が多くなってきました。

逆に、「イベントばかりやっていて、本当のまちづくりにつながっているの?」や「一過性の賑わいではなく継続が大切」等の声も多く聞きます。

今号の特集では、新しい社会・市民ニーズに対応したまちづくり型イベント、市民主導型まちづくりの第1歩としてのイベント、イベントが風物詩や祭りへと展開していくなど、まちづくりと地域密着型イベントのあり方についてレポートさせていただきます。

## ま ちなかアートが引き出す「場」の力 大阪事務所／岡本壮平

「芸術の秋」とあって、各地で様々なアートイベントが開催されています。まちづくり活動においてもアートを冠したイベントが増えてきました。今回は、ちょっと変わった「場」でのアートイベントを紹介します。ご紹介するのは、①篠山市町屋アートa)、②神戸市コンテナアートb)、③尼崎市留置場アートc)、の3つです。

### ①篠山市町屋アート

篠山城趾から東へ徒歩10分ほどの河原町地区。旧街道沿いに妻入商家や町屋が連なる伝統的な町並みが継承されている「重要伝統的建造物群保存地区」です。この町屋そのもの、通りそのものを展示会場にしてしまおうというアートイベントです。格子の美しい町屋外観を背景にした作品、町屋の土間



重厚な町屋を背景に現代芸術が映える（篠山）

や通り庭、高い天井などの空間的特長を活かした作品、重厚な柱や梁、美しい欄間の造形美などと一体となった作品など見どころ満載でした。芸術作品とともに展示場所そのものが芸術作品となり、本物の魅力を発揮していました。

### ②神戸市コンテナアート

神戸といえば港、港と言えばいまやコンテナ。メリケンパークに神戸港を象徴するコンテナ約70個を並べ展示会場にしようというイベントです。海上輸送用コンテナは幅8フィート（約2.4m）×高さ8.6フィート（約2.6m）×長さ20フィート（約6m）又は40フィート（約12m）で規格化されており、その限られた空間をいかに使うかも見所です。現代



町屋の通り庭（土間）を使った作品（篠山）



ゲートもスタッフルームも  
コンテナを利用（神戸）



規格化された空間に無限の  
鑑賞するにも勇気がある留置場アート（尼崎）  
可能性が広がる（神戸）



アートの多様性や斬新さにも心奪われますが、コンテナの「狭く・長く・暗い」空間的特長が、作品と見る者との同調、作品との対峙を求めます。そのため、アートを深く味わうことができました。

### ③尼崎市留置場アート

工業都市として有名な尼崎市にも尼崎城がありました。その城跡の城内地区には近代建築が集積していますが、その一つ、大正15年建築の「旧尼崎警察署」を舞台に恒例の城内フォーラムが開催されました。近代建築の魅力を周知し、新たな活用の可能性を発見することを目的に、地下留置場の「独房」が現代アートの展示場になりました。独房をよく知る方は少ないと思いますが、薄気味悪い雰囲気は独特のものがあります。怖さに包まれて鑑賞するアートは、見る者それぞれに個別に語りかけてくるようです。アートを通して明るくなったという人もいれば、怖さが増したという人もいました。アートを通して内なる自分と向き合っているかのような感覚がありました。



人の動線が交わる場所に置かれた椅子。  
「座れ」か？…「止まるな」か？…（尼崎）

### アートが引き出す「場」の力

今回紹介した3つのアートイベントは、作品と展示空間とが一体であるが故にアートを体感できるものでした。美術館や博物館ではなかなか体験できないことです。まちづくりの中でアートを取り入れるのは、単に「人集めがしやすい」ということでなく、アートを通して展示空間の持つ「場の力」に気づき、「場の持つ可能性」を引き出すことだと思います。そんなことを考えながら見ていた私自身、アート作品の一部に取り込まれていたのかもしれませんが。

<イベントの正式名称>

- 丹波篠山まちなみアートフェスティバル
- 神戸ビエンナーレ2009（アート イン コンテナ国際展ほか）
- 第5回あまがさき城内フォーラム「芸術警察～アマガサキ アートポリス2009」

### 方良しの「伊丹まちブラ '09」 大阪事務所／中塚一

前号でご紹介した「伊丹まちブラ '09」が10月17日（土）～18日（日）に伊丹の中心市街地である郷町界隈で開催されました。

当日は、昼頃からの大雨とあいにくの天気でしたが、「伊丹まちなかバル」では5枚綴りのチケット



白壁に市内企業のCMを投影する「まちなかシアター」





参加店舗のバルメニュー

が約 1,500 組み販売されるなど、予想を大幅に超える参加者でした。また、第 1 回目の開催ということもあり、事務局の対応が不慣れな事など反省すべき点も多かったのですが、来街者アンケート調査では「良かった」が約 9 割（非常に良かった約 5 割、良かった約 4 割）と好評な結果となりました。

今回のイベントの特長として以下の 3 点があげられます。

#### 様々なイベントが同時多発的に展開された

「酒蔵通りまち灯り・まちなかシアター」や「伊丹オトラクな一日」、「蔵富都たうんみゅーじあむ」など、様々な協議会や実行委員会が自主運営で同時にイベントが展開されました。特に、「伊丹オトラクな一日」では、バル参加店舗で突然に演奏が始まる等、その意外性・自由性が非常に楽しかったという感想を多く頂きました。

#### 継続性が重視された

「伊丹まちなかバル」では、本家である函館西部地区バル街実行委員会の方々にご協力、ご指導いただき、次回も開催できるように売上げの一部を運営費に活用できるシステムを採用しています。伊丹で

は、既に実行委員会で第 2 回に向けて話し合いがスタートしています。

また、参加店舗へのアンケート結果では、バル以降の「新規来客数が少し増えた」が約 5 割、「お店の新しいメニューやサービスを検討している」が約 4 割と、店舗側の状況や意識が変わり始めています。

#### 30～40 歳代の女性グループがメインターゲット

参加者の約 5 割が 30～40 歳代で、特に 30 歳代の女性グループが多かったのが、本イベントの特徴です。飲み歩きというと熟年の男性を想像しますが、「女性もまちを楽しみたい」という意識の表れではないかと考えます。

今回のイベントは、様々な店舗や市民、企業の方々が参加・協力され実施されました。まちづくりイベントでは地域で資金（お金）が循環することが難しいのですが、1 晩で約 450 万円のお金が地域に投資され、参加者もお得感で楽しめ、店舗も儲けは少ないですが PR の場となり、まちも賑わうという、「三方良い」のイベントであったのではないかと考えます。



酒樽の上に演出された「酒蔵通りまち灯り」



まちなかの広場で展開されたライブペイント

## 「宮塾」

好評開講中です

大阪事務所／坂井

信行

## まちづくりと都市計画マスタープラン

西宮市の現在の都市計画マスタープランは市職員の方々の手作りです。震災後の復興まちづくりを都市計画がどうサポートしていくのか、それがマスタープランのテーマでした。復興まちづくりの進展にともなって市街地内では新たな土地利用上の問題が発生してきました。これに対して各種の土地利用コントロール制度が導入されましたが、マスタープランに位置づけられたものばかりではありませんでした。マスタープランの策定から10年を経て、新たなマスタープランの必要性が高まりました。

これまでの都市計画は市民にとって必ずしも身近なものではありませんでした。今後、まちづくりの担い手として市民が重要な役割を果たしていくことは今や疑いようもないでしょう。市民のまちづくりを都市計画がどうサポートしていくのか、これが新しいマスタープランのテーマになるはずです。

## 「宮塾」開講！

さて、「宮塾」です。「宮塾」とは「西宮まちづくり塾」のことです。マスタープランの見直しを契機に、市民を対象にまちづくりや都市計画について学んでいただく機会を提供するものです。各分野の先生方をお招きし、私たちの暮らしがまちとどのように関わっているのか、まちづくりにどのように取り組んでいけば良いのかなど語っていただく8回シリーズのプログラムです。

通常、まちづくりの講演会には人が集まらないのありがちなパターンです。第1回の宮塾は話題性を狙う意味もあり甲子園ホテルで開催することになりました。甲子園ホテルは西宮市民にとって知名度

は高いですし、今年の8月には皇太子が立ち寄られるなどタイムリーでした。当日は施設見学会が企画されたこともあってか150名を超える参加申し込みがありました。講師は近畿大学の久隆浩先生です。いつもながらの弁舌さわやかな語り口と豊富な事例を交えたわかりやすい内容で、参加者の方々も納得された様子でした。

2回目以降はどうなることやら。会場は「普通の」小ホール、事前申し込みもなしということで心配でしたが、第2回も100名を超える参加がありました。「こんなこともあるんですね、3回目にはどれくらい減るでしょうね」市の担当者とはこんな話をしていました。その後、第3回は80名超、第4回は90名超と高水準が続き、講師の先生共々驚いています。

講師のお話が魅力的なのはもちろんでしょう。運営にあたってはキャラクターの出席スタンプをつくったり、待ち時間にBGMを流したりと、やわらかな雰囲気づくりも工夫しています。行政が仕掛けるまちづくりイベントには人が集まらないという定説は、いくつかの条件が整えば成り立たなくなっているのかもしれませんが。

## 「公共性」をいっしょに学ぶ

市民が取り組むまちづくりでは「公共性」の概念が非常に重要です。現在たまたま住んでいる人たちだけで納得しさえすればどのような方向性も許されるのでしょうか。新しいマスタープランをつくるまでにこの問いに対する答えを用意しなければなりません。

私も西宮市民です。「公共性」とは何か、「宮塾」に参加の皆さんといっしょに学んでいきたいと思えます。



「宮塾」のキャラクター、名前はまだまだありません



甲子園ホテルでの開催は話題性を狙ったものだったのですが…



「普通の」会場でもこれだけの参加があります



ひと・まち・地域

注目を浴びる事業仕分け

大阪事務所／田口

智弘

昨年に引き続き本年（平成 21 年）も、滋賀大学事業仕分け研究会（以後「研究会」）のメンバーとして事業仕分け（事業仕分け・地域事業組成）に携わり、長岡京市、大津市（大津市は構想日本と共同実施）に仕分け人として参加しました（前回は 155 号で紹介）。

民主党政権による行政刷新会議では、22 年度予算編成に向け、概算要求の無駄を洗い出すため「事業仕分け」が用いられています（平成 21 年 11 月現在）。民主党は政権交代以前から積極的に事業仕分けを採用する方針を持っていました。その影響もあってか、構想日本が平成 20 年度に実施した事業仕分けは国を除いて 12 だったものが、平成 21 年度には 22 にまで増え（構想日本 HP 調べ）、事業仕分けは一躍脚光を浴びることとなりました。テレビや新聞などのメディアも大いに賑わしているようです。

事業仕分け・地域事業組成活動は次のようなステップで行います。まず、自治体で、担当者を決め、事業の選定、選定した事業についての事業概要シート（1 事業 1 枚程度）の作成、当日の事業説明者の配置、結果の整理等を行います。事業概要シートは事業評価シートがあればそれで代用することも可能です。

事業仕分けは、下図のように進めます。仕分けする事業の数によって時間は異なりますが、たとえば長岡京市では 2 班編成で 10 事業／班、合計 20 事業を 1 日で作業しました。大津市では 3 班編成で 8 事業／班、合計 24 事業を 1 日で作業しました。

班の構成は大津市の場合では以下のとおりでした。  
・コーディネーター 1 名（滋賀大事業仕分け研究会又は構想日本）

- ・評価者 5 名（滋賀大事業仕分け研究会及び構想日本 4 名・市民委員 1 名）
  - ・説明者 2 名～4 名（事務事業所管課）
  - ・事務局・書記 2 名
- 仕分けの実施結果は各市の HP に掲載されていますのでご覧ください。

この 2 年間で経験した 6 市の事業仕分けをもとに、自分なりに事業仕分けの良い点、悪い点、そして今後の課題を整理してみました。

【良い点】

○客観的な評価が出来る

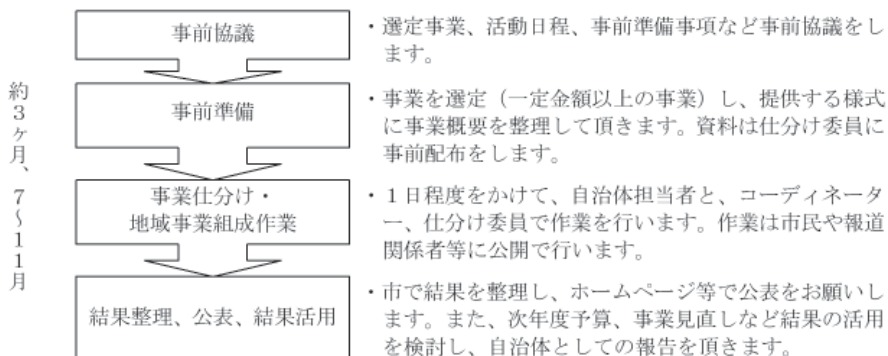
評価者は外部委員と市民の混成とすることを研究会は勧めています。その結果、第三者の目で客観的に事業を評価することが可能となります。自治体が発行する事務事業評価は、行政が事業に関わる妥当性も含め、必要性・効率性・経済性等について検討していますが、その多くはお手盛り評価のそしりを免れません。内部評価においては事業の必然性を長年の慣習や法令、条例を根拠として、それらを顧みないところに限界があるようです（全ての評価がそうであるとは言えませんが）。

○評価の過程や結果がオープンになる

評価の過程や結果は市民や報道関係者に公開されます。評価は結果ではなく、この客観的な評価をもとに、次は事業の受益者と主体である市民と行政がその事業のあり方について考え、是非を決めていくこととなります。

○事業仕分けに関わる職員のスキルアップにつながる

行政刷新会議の事業仕分けの評価者と事業を説明する職員を、報道は「まるで検察と被告人のよう」





と評していました。実際に仕分け作業の質疑応答・議論ではつっこんだ厳しいやりとりがなされます。

しかし、事業について担当職員が全て答えることは当たり前のことであり、そのためには担当職員には相当の準備が求められます。これまでの内部評価と異なり、質疑応答の全てがオープンになるプレッシャーは職員のスキルの向上につながります。

**【気になる点】**

○評価する事業の数と内容が限られる

自治体の事務事業は、事業のくくり方にもよりますが、1000を下回ることはありません。事業仕分けで評価できる事業は、これもやり方によりますがせいぜい30～40程度です。全ての事業を仕分けすることが理想ですが、膨大な時間と労力が必要です。このため、行政が抽出した事業を対象として仕分け作業をすることになりますが、抽出された事業が仕分けに値する事業かどうかが問題となります。財政に影響のある事業、行政も市民も判断を迷っている事業を抽出してもらう必要があります。

○政策・施策レベルからの評価は十分とはいえない

仕分けは事業単位で評価するため、事業を束ねる施策や政策単位の評価が十分ではない、と個人的に感じています。事業の目的や類似事業、成果指標などの情報も得ますが、事業の体系や自治体の戦略などは容易に評価に組み込むことができません。また、対象事業を不要と判断した場合、新たな事業を提案

できればいい（スクラップ&ビルド）のですが、仕分けの限られた時間内では困難であり、それは仕分け後の市民と行政にゆだねるところとなります。

○事業仕分けができる主体が少ない

行政刷新会議の事業仕分けで一気に認知が進んだ感がありますが、今のところ構想日本が主となっていて、関西では滋賀大学研究会が役務を提供しているだけであり、仕分けを実施する自治体が増えると全ての需要をまかないきれなくなります。

これらの良い点・悪い点を踏まえ、私なりに事業仕分けの今後のあり方をまとめてみました。

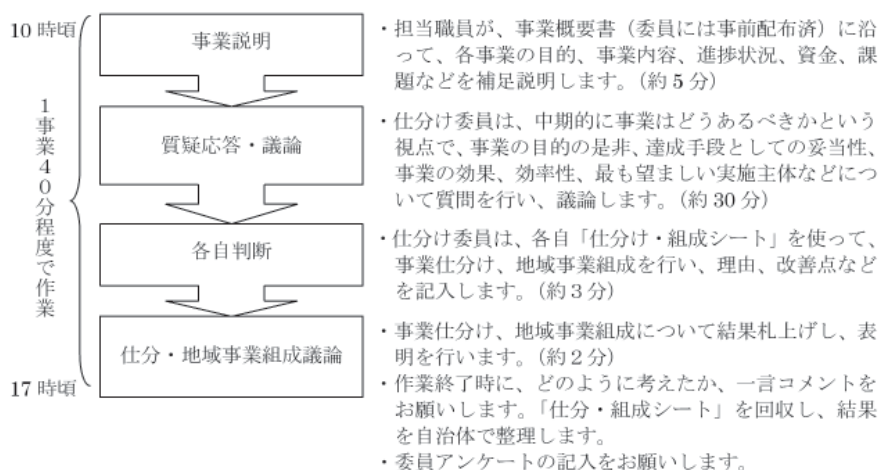
**【今後のあり方】**

○行革ツールから地域経営ツールへ

事業仕分けの悪い点として、事業抽出の難しさ、政策・施策レベルの評価の困難性をあげました。これらを解決するために、各自治体で導入されている行政評価と事業仕分けを連動させることが考えられます。行革ツールから地域経営のツールに転換することが望まれます。

○誰でもできる仕組み（オープンで身近なシステム）

事業仕分けのコーディネーターや評価者にはある程度のスキルが要求されます。しかし、一定の研修と経験により、誰もが仕分け人としてその役割を果たすことは可能です。事業仕分けは、オープンで身近なシステムとなって、地域経営を推し進め、地域をよりよくすることにつながることを期待します。



（資料：滋賀大学事業仕分け研究会）



## 簡易宿所（ドヤ）という地域資源の活用

大阪事務所／岡崎 まり

入社して半年がたちましたが、今回は私が大学で研究してきたテーマについてご報告したいと思います。

あいりん地区は大阪市西成区の東北端に位置しており、歴史的に日雇労働者の集積または居住する地域として知られています。

この地区に初めて訪れた時、地域と地域との間に空気の壁があるような、そんなはっきりとした境界を感じました。そしてこの地域に住んでいる人の9割が建設業に携わっているにも関わらず、自分たちには帰る家がないという実態を知り、あいりん地区と彼らが住んでいる「ドヤ」と呼ばれる簡易宿所についての研究を始めました。

簡易宿所は旅館業法の中で「宿泊する場所を多数人で共用する構造及び設備を主とし、宿泊料を受けて人を宿泊させる営業」と規定されています。形態に着目すると明治・大正期の頃は大部屋中心の相部屋方式でしたが、その後小間式・蚕棚式等による部屋の細分化が進み、1970年の大阪万国博覧会前後に木造からRC造へと変化していきました。そして現在地区内に存立しているものの大半は1980年代のバブル期に建てられた、客室が3畳一間で冷暖房が完備している建物です。

しかし、これらの新しい簡易宿所が建てられて直ぐにバブルが崩壊し、日雇求人数の減少と労働者の高齢化が進行したことにより地区内に野宿生活者が増加



BHに展開しているビジネスホテル  
来山南館の談話スペースの様子



3畳一間の簡易宿所の  
客室の様子

しました。これに対してNPO団体等は居住環境の改善を、そして簡易宿所の経営者は利用者確保に繋がる取り組みを模索し始めました。そして2000年前後から生活保護受給者を対象としたアパートへの転用を行う動きと、外国人旅行者向けに経営展開を行う動きが活発に進められるようになりました。

簡易宿所を転用しアパート化する動きは2008年7月末までに71ヶ所で実施されています。これは地区内における生活保護受給者の増加が影響しています。住宅保護を受けるには定住が条件です。そのため、地区内ではアパートへの需要が高まり、それに応える形で保証人や保証金を不要とするアパートへの転用が進められました。

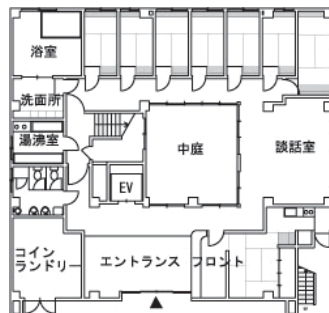
そして簡易宿所転用型アパートの一種にサポートハウス（以下SH）と呼ばれる居住形態があります。SHは失業や高齢などが理由で宿泊料金が払えず野宿生活を余儀なくされている人々を対象とした福祉型のマンションへと経営替えを行っています。敷金や礼金を一切とらず生活受給金だけで入居できる仕組みを作り上げています。

SHは2000年1月に行われた第4回釜ヶ崎のまち再生フォー

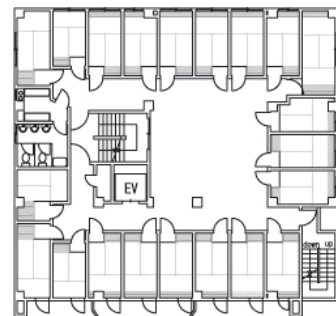
ラムから発展して生まれたものです。このフォーラムに参加していた簡易宿所の経営者が各自でアクションを開始し、2000年6月に第一号が開設されました。SHは「簡易宿泊所に共同リビングや生活相談体制を備えて、地区単身高齢者用アパートに転用した通過型住居」と定義されており、2008年の時点で10～15軒開設しています。

一方、外国人旅行者向けに経営展開を進めているバックパッカー向けビジネスホテル（以下BH）は2009年1月の時点で17軒開設しています。BHはあいりん地区内にあるホテル中央グループが中心となって進めており、日雇労働者以外の客層をこの地に呼び込み地域の活性化を図ろうとしています。

ホテル中央グループは2003年頃からホームページの他言語化を進め、本格的に外国人旅行者向けに経営展開し始めました。そして2005年5月に大阪府簡易宿所生活衛生同業組合の中で外国人旅行者を積極的に呼び込もうとするO.I.G（The Committee for Creation of Osaka International Guesthouse Area）委員会を立ち上げました。O.I.G委員会に加入するための条件は無く、様々なニーズに応えるために設備と料



1階平面図



基準階平面図

SHの平面図の一例。客室を3室つぶして談話室をもうけている。そして、3畳一間が入居者の個室である。



金に幅を持たせています。BHの宿泊者数は年々増加傾向にあり、ホテル中央グループ5軒に宿泊した外国人旅行者の合計人数を見ても2004年の9,293人から2007年の42,348人へ急増しています。またBHではこの1年ほど前から住居喪失不安定就労者（いわゆるネットカフェ難民）への緊急対応用の宿所を提供する新たな取り組みが行われています。

これら2つは全く異なった取り組みですが、今まで蓄積されてきた簡易宿所を地域資源として捉え、まちを再生していこうとしている点で共通しています。このような地域は現在までスラム・クリアランスによって改善されてきました。しかしあいりん地区の近年の変化を見ると、地域に関わる者たちが積極的に行動を起こしていけば、建築の改修や用途転換という1つ1つを取って見ると小さな変化でも、それが重なると大きな活力となって地域に劇的な変化が与えられることを証明しています。

まだまだあいりん地区独特の雰囲気抵抗を感じる人は多いですが、BHが地区内に点在し始めたことにより新たな客層が地域に流入し、今までなかった他の地域との緩やかなつながりをも持ち始めています。一方でSHも生活保護受給者向けのシステムだけでなく新たな経営展開を模索し始めています。特にこの1年ほど前からBHが住居喪失不安定就労者への緊急対応用の宿所を提供していることから、現在までに築きあげてきた生活支援体制を活かした住居喪失不安定就労者に対する新たな展開が期待できます。

## 「まいど！東大阪」が 石切参道に開店！

大阪事務所／高田 剛司

### 東大阪初のアンテナショップ

秋晴れの10月10日（土）、東大阪の特産品を扱うアンテナショップが石切参道沿いにオープンしました。お店は、大阪樟蔭女子大の協力を得て、参道沿いの空き店舗1Fを改装したもので、近鉄石切駅から石切劔箭神社までのほぼ中間に位置しています。

駅から神社までは、比較的急勾配の坂道になっており、高齢者の参拝客が多い参道において、ちょうどよい休憩場所にもなります。そのため、アンテナショップの開設に併せて、地元の石切参道商店街振興組合が、お店の敷地内に足湯を整備しました。

### 開店までの道のり

アンテナショップ構想が持ち上がった今春に、東大阪市の商業振興ビジョンづくりに携わっていたこともあり、この10月に開店したことは非常に感慨深いものがあります。

開店まで実質半年も無いとい



東大阪市出身の「つんく♫」さんからも祝いの花が。店内には、つんく♫さんから展示協力いただいたギターや近畿大学附属高等学校時代の制服もある。

う短い準備期間でしたが、この成功には、類い希な行動力で事業を推進した、ある女性の存在が欠かせませんでした。その方のお名前は、大西由起子さん。大西さんのこれまでの人的ネットワークを活かし、周囲の人々（青年会議所OBなど）の強い地元愛と事業に対する熱意が実現の力となりました。連日深夜まで議論を重ね、事業計画等を練るとともに、販売する商品の収集にも奔走したと聞いています。

また、大学との産学連携、地元商店街との連携も深め、関係者の輪は広がりました。もちろん、商工会議所や、運営母体の観光協会、東大阪市のバックアップもありました。

このように多くの関係者の連携が実り、立派なオープニングに結びついたのではないかと思います。

### “東大阪”を情報発信する拠点として

東大阪は中小製造業が集積するモノづくりのまちとして全国的に有名です。このアンテナショップの愛称は「まいど！東大阪」ですが、「まいど」の元祖（？）というと、東大阪の中小企業のおっちゃんたちが「人工衛星まで作れる！」と言って、今



店内の商品群：花園ラグビーまんじゅうなど地元の菓子や、地しょうゆなどの調味料、バイオ洗剤、携帯用歯ブラシなど地元企業が製造する特色ある日用品が販売されている。



きんきょう

年1月に本当に打ち上げを成功させた「まいど1号」の名前を思い出します。

また、高校ラグビーの聖地として有名な花園ラグビー場があるのも東大阪市です。

こうしたまちの特色を活かして特産品、工業製品が市内には数多くあります(あるはずですが)。しかし、これまで「東大阪」のブランドとしての売り出しは、弱かった面が否めません。

そこで、市内の特色ある商品やまちの情報発信を担う役割が、このアンテナショップには求められます。さらには、新たな商品づくりのコーディネートを通じて、市内商業だけでなく製造業や農業、観光など、他の産業への波及効果も期待されるところです。

まだ開店1ヶ月。事業を軌道に乗せるための勝負はこれからです。みなさんも、ぜひ一度、「まいど! 東大阪」に足をお運びください。

場所などの詳細は、東大阪観光協会 東大阪物産観光まちづくりセンター HP をご覧ください。  
<http://www.maido-higashiosaka.com/>

## 学校からはじまるエコなまちづくり

大阪事務所 / 原田 稔

今回ご紹介するのは、今年度から堺市立堺高等学校を舞台に進められている「学校エコ改修と環境教育事業」通称: エコフロー事業の中の「学校エコ改修研究会」についてです。

エコフロー事業の特徴は、単なる学校エコ改修というハード



参加者自ら環境測定をしました

整備にとどまらず、地域の身近にある施設である学校を対象にし、CO<sup>2</sup>排出量を抑制しながら、生徒の快適な学習環境を確保するエコ改修の実施と、そのプロセスを通して学校や地域における環境教育の推進、環境に配慮できる・ひとづくりを目的とした、ハード整備とソフト事業がセットになっているところで、特にCO<sup>2</sup>の削減がキーワードとなっています。

今回私たちは事業を運営する専任事務局として、エコフローサポート本部の支援のもと、事業全体のプログラムの組立と運営を堺市、堺高校とともにを行っています。

「学校エコ改修研究会」では、環境建築等の勉強会やワークショップを通して環境建築の技術や、地域としてできることを学び、環境建築の担い手を養成するとともに、エコ改修に向けた基本構想案を作成します。

研究会は設計者をはじめ建築関係の技術者をメンバーとして計6回開催され、第1回目は各自の家庭でのエネルギー使用量からCO<sup>2</sup>の排出量を算出するワークショップ、第2回目は当研究会の座長でもある大阪大学の山中俊夫教授の協力で改修の舞台である堺高校の校舎の温湿度や照度、気流の流れ等の室内環境測定を研究会のメンバーの手で行い、室内環境の現状を体感していただきました。第3回から5回ではエコスタイルの事例見学や



ワークショップで基本構想案を作成中

専門分野の先生方による講義等の勉強会を行い、最終回の基本構想案づくりのワークショップでは研究会のメンバーから、自然エネルギーの利用、校舎や校庭の緑化、学校や地域の歴史や資源を活かしたエコ改修等、様々なアイデアの提案をいただきました。

次のステップとして、この研究会で提案された基本構想案を参考にしながら、設計者を選定するプロポーザルが行われます。「学校エコ改修研究会」としては終了しましたが、ここで得た知識や技術を今後は実務で生かしていただくことを期待しています。また、今後は改修設計、改修工事と併行して環境教育のプログラムが進められます。

アルパックとしては、環境への意識が学校を通じて生徒から家庭へ、家庭から地域へ広がっていくことを目標に、今後も事業運営に専任事務局として係わって行くこととなります。

エコフロー事業の詳細について  
<http://www.ecoflow.go.jp>  
堺高校での研究会の様子も詳しく紹介しています。



研究会の記念写真



## 私のしごと館問題とけいはんな学研都市

代表取締役社長／杉原 五郎

### 私のしごと館問題

けいはんな学研都市の中心クラスター、精華・西木津地区に私のしごと館がある。私の自宅（木津川台）から歩いて15分ほどのところである。厚生労働省の所管で、平成20年9月から、洞爺湖サミットなど国際会議の受託実績があるコングレという民間会社が経営している。

私のしごと館は、総額581億円の公的資金（社会保険事業の事業主負担）が投入され、平成15年10月にオープンした。中学生や高校生など次世代を担う子どもたちが働くことを実際に体験しながら学ぶ「キャリア教育」の機能を担い、毎年30数万人が同館を訪れている。竣工以来6年ほどしか経過していないが、「採算性が良くない」との理由で、昨年12月、前政権による閣議において廃止が決定された。

### 私のしごと館問題を考える市民フォーラムを開催

本年5月24日、地域・住民の視点から私のしごと館問題を考える、市民フォーラムが開催された。主催は、「けいはんなのまちづくりを考える会」で、この会は、平成14年12月に設立された住民団体である。10名ほどのメンバーで運営委員会を構成し、これまで、けいはんな学研都市をさらに魅力と活力のあるまちにしようとの思いで、例会、ワークショップ、フォーラム、講演会などを企画・実施してきた。ちなみに、私はこの会の代表を務めている。

5月の市民フォーラムには、考える会からこれまでの経緯を踏

まえた問題提起を行い、地元の住民代表3名、地元自治体の精華町長と木津川市長、教育関係者として中学校及び高校の校長経験者によるパネルディスカッションを行った。フォーラムの基調は、キャリア教育の拠点として重要な役割を担っているしごと館の機能をなんとか存続できないか、というものであった。

この市民フォーラムの事前準備の様子は、NHK京都放送局と大阪放送局の番組で紹介され、当日の様子は、地元CATVの特別番組として報道された。後日、朝日、読売、毎日、京都、日経の新聞各紙にも取り上げられた。

### けいはんな学研都市とアルパック

けいはんな学研都市（関西文化学術研究都市）は、1978年12月、奥田懇談会による提言を契機として、関西の産・学・官が連携して国を動かし、国家的なプロジェクトとして推進されてきた。1987年の推進法制定から20年余り経過し、今日では、関係者の努力により、私のしごと館をはじめ、国際高等研究所、国立国会図書館関西館、国際電気通信基礎技術研究所、関西光科学研究所、奈良先端科学技術大学院大学など中核的な文化学術研究施設を含め110余の施設立地が進み、優れた研究成果と貴重な技術移転が生まれている。

アルパックは、けいはんな学研都市の構想当初から奥田懇談会の事務局を担い、さまざまな提言、調査、計画策定、事業化推進をサポートしてきた。私自身も、構想初期の京都府建設計画、地元3市町の行政連絡会と精華町の研究会、セカンドステージプラン、産学連携の仕組みづくりなど、30年以上にわたって多

くの関係者とともにけいはんな学研都市の発展・前進に尽力してきた。1990年8月に、木津川台（現木津川市）に居を構えてからは、地元住民の視点からけいはんなのまちづくりにも積極的に係わってきた。

### 私のしごと館の有効活用を考える第2回市民フォーラムを企画

このたび、11月29日（日）の午後、私のしごと館において、「私のしごと館の有効活用を考える、第2回市民フォーラム」を開催することとなった。今回は、本年5月の市民フォーラムでの議論とその後の社会経済状況の変化を踏まえて、地域の視点から私のしごと館の有効活用について提案をまとめ、関係者による熱い議論を予定している。

提案の骨子は、第1に、私のしごと館問題を国の責任において解決する、第2に、私のしごと館を国民・市民のために有効活用する、第3に、私のしごと館は、民間活力の活用と地域の主体的参加を基本に運営する、の3点である。

### 私のしごと館問題の今後の展開を注視

本年8月末の総選挙において、民主党を中心とする連立政権が生まれた。どのような政策が実行され、日本の経済や国民の暮らしがどうなるのか、大いに関心を持っているところである。私のしごと館問題がどのような形で決着するのか、ひとつの試金石になるものと考えられる。

ちなみに、厚生労働大臣は、11月10日、しごと館を来年3月末に閉館するとの発表を行っている。





## 近況 10 月の報告

取締役相談役／三輪 泰司  
(NPO 平安京・代表理事)

### うれしいこと

10月2日、社団法人日本建築家協会（JIA）の京都での全国大会で名誉会員に推挙され、出江寛会長から、名誉会員証を頂きました。銀色のメダルにはNo.101と刻印されていました。

前日1日には、終屋で「名誉会員の集い」を催して頂きました。JIAは国際組織ですので、大会へ参加された韓国・タイなど海外建築家団体ミッションの歓迎会を兼ね、交流を深めました。

6日には、京都市景観まちづくりセンターの若い皆さんが、お祝いをしてやろうということで、丁度皆さんが、その名もずばり「まちづくりコーディネーター」と題する本を出しましたので、ギブアンドテークで出版祝いと兼ねて飲み会をしました。

JIA全国大会・京都2009のテーマは、『「京」の佇まい：はんなりと－受け継がれる人と建築－』でした。

4日、みやこメッセで、大会のホストを勤めたJIA京都会の会員が企画した「建築と子どもた

ち－子ども現代銚」はすてきでした。子どもにとっては、ダンボール箱がお城になったり、船になったりします。会員が提供した屋形型・傘銚型などのフレームに、子ども達が夢中になって取っ組み、銚に仕立てて行きます。建築は3次元の立体物。マンガやイラストの次には、ちょっと難しいテクノロジーに挑戦し、イリュージョンや建築へと、想像力が羽ばたいて行くでしょう。

「建築家」にはさまざまなタイプがありますが、ビジネスとも名声とも関係なく、市民しかも子どもたちの目線で、次世代へ“受け継がれる人と建築”のために汗を流しているグループもあるのです。

### 京都観光のこれから

10月4日、府庁境界の歴史・文化資産を巡るツアーに続いて、旧本館正庁で、観光講座を開きました。「府庁旧本館利活用応援ネット」の主催です。

開講に当たって山田啓二知事に「観光から京都の経済の元気を取り戻したい」とごあいさつを頂き（右下写真）、第1講は、京都市の門川大作市長に「日本に京都があってよかった！－京都観光これから－」と題して、観光客数

が年間500万人を超えた京都の新たな観光戦略について、奥深いほんまもの魅力に磨きをかけ、満足度の高い観光を提供することと、熱く語って頂きました。

旧本館利活用は、ミュージアム型から周辺地域へツアーガイド型に拡がり、事業のタイプでいうと観光で、まちづくりと連動します。

観光計画とは、二つの要素を結び、組み立てることだと思います。

「しつらえ」という調度から建築、町並みにいたる物的・空間的要素と、「もてなし」という作法とか、気配りといった人間のふるまいによる人的要素が必須で、それを結ぶ「心」はコンセプトとか言って、それぞれの地域や条件によって決まります。

京都の心は、ひとことで表現すると「はんなり」でしょう。はんなりとは、語感からは柔らかい、優しい感じを受けますが、本来の語源は「華なり」で、市長が言われたように、ほんまものに磨きかけて行くという、厳しく誇らしい意味がこもっています。

しつらえには、もてなしのために必要な機能が要求され、逆に今あるしつらえを活かしてのもてなしを組み立てます。



屋形にお人形を飾りましょう



傘はカラクリで廻るのかな？



山田啓二知事のごあいさつ

府庁旧本館も、れっきとした、しかも重要文化財というしつらえです。でも本来は庁舎建築で、宮殿ではありません。しかし、知事・市長も認めておられるように、京都における象徴的な近代建築で、市民社会の時代のパレスと言えるでしょう。

この“しつらえ”の次の課題は、正庁に続き、旧議事堂の修復です。それには、もっと府・市民に親しまれる“もてなし”を展開して、どのような“しつらえ”であるべきか、造形デザインのイメージも考えてみたいと思います。

**こだわりマルシェ2**

ご好評に答え、10月18日の日曜日に第2回を行いました。今回もNPO 平安京の池内一博さんが実行委員長。京都府立大学の中村貴子先生のコーディネートで、エコファーマーのお店をはじめ、庭園マルシェ20、中庭マルシェ3、フードホール6、こだわりグッズ8店と同規模でし

たが、前回6月は正味5時間で、2000人。

今回は1500人でした。秋は増えるかと思ったのですが、好天で学区の運動会にぶつかりました。

食の安全、ふるさと共援を体験的に知って頂く「お米の食べ比べ」やお餅つきも人気で、前回は京都府警音楽隊がオープニング演奏。今回は修学院のお母さんたちのCOCONによる太鼓が美しく響き、大道芸も好評でした。

**まちかどミュージアム**

芸術の秋です。今年の「まちかどミュージアム」は、10月27日～11月10日。くみひも、香木、仏像彫刻に楽美術館・京都中央信金美術館など、府庁界限13ヶ所に展開し「京都・知恵と力の博覧会－発信！京の底ぢから－」

(知恵博)協賛事業として行われます。知恵博は、「魅せます！ほんまもんの京都」をキャッチフレーズに、12月10日まで、京都の街ぐるみを会場に行われます。

**応援ネット1年**

発足して満1年。NPOたちの立場から、活動の特徴とこれからの課題を考えてみます。

①核があって行政各部課との協働も入れ替わり立ち代わり

府の軸は総務部府有資産活用課で、事業に応じて商工労働観光部観光課、農林水産部食の安心・安全推進課、農産課、文化環境部文化芸術室が表に立って応援ネットと協働し、府民生活部NPO協働課、広報課から府警までが支援。

②府・市民の目線に立ち、反省・評価し、企画・実行する

毎月の応援ネット定例会議で、企画調整、評価反省の機能が確立しましたが、プロデュース・コーディネートとともに、ボランティア活動といえども公費が入りますので事業の透明性も不可欠。実務も増え、事務局にはご苦勞をお掛けしています。資金財政、広報発信等の体制づくりが課題です。



こだわりマルシェ2のリーフレット



まちかどミュージアムのリーフレット





## 尾張名古屋城下町の風景を訪ねて～尾張名所図絵の今昔を巡る②

名古屋事務所／尾関 利勝

前回のニュースレターで、城下町名古屋の歴史の概要をレポートした。名古屋の歴史を正しく伝えるには、名古屋の地形＝伊勢湾の歴史から語る必要があるが、別の機会に譲り、1年半続いている尾張名所図絵今昔巡りから、今回はその跡を簡単にレポートする。

### 城下町の外周部が良く残る

城下町名古屋の名残は、かつて町人町だった碁盤割の道路構成に見ることができる。道路の通称として昔の名前が残るものの、町名変更で旧地名は変わり、建物の大半は戦災により焼失した。

この碁盤割の外周、城下町を囲む武家屋敷町、寺町辺りには、戦災の焼失を免れた建物が比較的残されている。

### 武家屋敷町跡の白壁界隈

近代の起業家達が競って住んだ白壁界隈は、和洋折衷の近代住宅建築に建て変わり、武家屋敷跡の約600坪の敷地割、黒塀と見越しの緑に城下町の名残を留める景観が、全国的にも希少な町並みの特徴となっている。



白壁界隈 現在

### 城下の社寺の名残

白壁界隈の北～東に善光寺街道があり、この口を固めるように社寺が多く建てられていた。境内は戦災復興で狭くなったが本堂や山門に名残を伝えるものが多い。



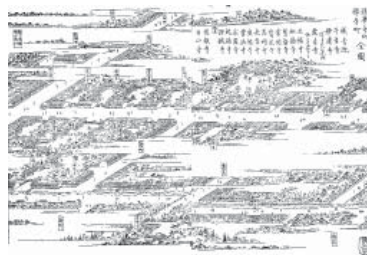
尾張名所図絵：長久寺



長久寺

### 今に風情を伝える東の寺町

信州飯田に向かう飯田街道の口を固める東の寺町には、戦災を免れた社寺群が通の景観を良く伝えている。



尾張名所図絵：東寺町



東寺町

### 西の寺町・新道6カ寺

城下西、美濃街道の口に西の寺町、新道6カ寺があるが、東の寺町ほど残っていない。



尾張名所図絵：新道6カ寺



新道6カ寺

### 円頓寺・四間道(しけみち)界隈

円頓寺界隈は築城時に出来た古い商店街である。ここから堀川沿いに清洲越以来の商人町と、その西に戦災を免れた木造住宅街が残され、近年飲食店への活用が増えている。

以下、次号に続く。



尾張名所図絵：四間道



四間道



## MEDIA WATCH

### 「世界写真機に ARをみる」



紹介者／京都事務所 廣部 出

#### ARが現実

ARってアルバックじゃないの？と怪訝に思われたかもしれませんが、このARはAugmented Reality、即ち「拡張現実」や「強化現実」といわれる技術のことです。広くいえば、五感を通して認識している現実の空間に、デジタルな技術によって、映像や音声、文字などの様々な情報の空間を重ねあわせるように付与するもの。デジタルな世界を現実の世界のようにしようとするVR（仮想現実）とは、真逆ですね。ARの応用例はいくつかあるのですが、コミュニケーションという側面に着目して、ひとつのソフトウェアをご紹介したいと思います。

#### ソコにいること、アッチを向くこと

その前に、技術的な条件についてご説明をば。まず、GPS。カーナビやケータイ等を端末として一気に民生レベルに普及した「ワタシはドコにいますか？」という問いに答える技術です。答えるためには、少なくとも3つの計測装置が必要です。例えば人工衛星とか。ひとつの人工衛星からワタシまでの距離。これは、電波の往復時間で測れます。逆から見れば、ワタシは、人工衛星を中心に、ワタシと人工衛星との間の距離を半径とした球面のどこかにいます。そして、3つの人工衛星を使えば、ワタシは3つの球面の交わる場所にいる。これ、実は2点が特定されるのですが、1点が地上、もう1点がとても人類が気軽に行けそうにないところになるので、ワタシがソコにいることがはっきりするわけです。それから電子コンパス。「ワタシがいまどっちを向いてるのか」がはっきりしないことには、現実空間に情報空間を自動的に重ねることができません。あとは、カメラとモニタ。これだけでいいオッケーです。そんなキカイ、手近など

ころに……あります。例えばチマタで話題のiPhone。実は、AR（アルバックのほう）にも私を含めてたぶん5～6人ほどユーザーがいます。

#### あなたの知らないパラレル・ワールドが

さて、いよいよご紹介に至るわけですが、頓知・（とんちどつと、と読みます）という会社が、先般世に送り出した先行ARソフトウェア、それが「セカイカメラ」です。ユーザーは、エアタグと呼ばれるものとして文字や画像、音声の情報を現実空間と重なる情報空間に自由に配置できます。それぞれのエアタグは、それを作成した人の情報と結びつけられていて、工夫次第でエアタグを媒介にしたコミュニケーションもできますし、誰かが残したエアタグにリンクさせて新しいエアタグを残すこともできる……といったシロモノです。

既に、各種イベントやブランド・ショップのプロモーション、パリの科学博物館、京都ではマンガミュージアムなどで試験的な活用がなされています。また、昨今（実は結構以前からなんですが）流行りのTwitter（つぶやき共有型SNS）とも連携していて、敏感層にはじんわりホットな感じで、なんとなくWWWが普及し始めた頃のような、新しいコミュニケーション・メディア勃興の予感がします。まあ、まだまだ活用は模索段階ということで、大勢の人が行き交う京都駅などには無数のエアタグが配置されていて、すっかり混沌の極みになっちゃってますが。

将来的に動画も利用できるようになるそうですし、電子決済なども取り込んで、端末形態やユーザー・インターフェイスがもっと洗練されてくれば、生活の各般、また、まちづくりの分野においても、いろんな可能性がありそうです。



## 懐かしさにあふれる「昭和の町」 ～豊後高田市～

大阪事務所／絹原 一寛

大分県の豊後高田市をご存じでしょうか。国東半島の西側、周防灘に面した人口約2.5万人の小都市です。ここに、今、年間30万人を超える観光客が訪れています。そこにあるのは、昔ながらの商店街。それも、映画「ALWAYS 三丁目の夕日」で描かれた昭和30年代を彷彿とさせる、懐かしさにあふれる商店街です。

「犬や猫しか通らない」と揶揄されるほど廃れた商店街を何とかしようと、地元の商店主、商工会議所、市が一体となって検討をスタートし、行き着いたコンセプトが「昭和の町」。商店街に残っている昔ながらの商店や倉庫、年期の入った商品、ずっと家の押し入れに眠っていた道具などをほぼそのまま利用したまちづくりの戦略を練り上げ、実践してきました。

私は昭和30年代生まれでは無いのですが、子供の頃に遊んだポリバルーンを見つけたり、金物屋でねずみ取りを見つけたり、文具屋で昆虫の標本セットを見つけたりと、昔懐かしい記憶を呼び起こす品々があちこちにあり、ご案内人さんの名ガイドやまちの方々の暖かいおもてなしもあり、



「昭和の町」のまちなみ

ゆっくりと楽しむことが出来ました。

その過程に携わられた方々にお話を伺いましたが、何ともドラマチックで、熱かった。発する言葉からも熱さが伝わってきます。

- ・「昭和の町のコンセプトに行き着いたとき、それまで誰も目をとめていなかったものが光を放った」
- ・「誰一人として、こんなことになるなんて、想像していなかった」
- ・「やっぱり、大事なのは『人』。皆、あきらめの悪いやつばかりだった。いろんな人を巻き込んだので、女たらしならぬ『人たらし』といわれたけど、それが良かった」
- ・「何より、自分たちのまちを誇りに思えるようになった」

やはり「これ」という強いコンセプトが見いだされた時のまちづくりのパワーは凄い。そして堂々と自分のまちを熱く語る人がたくさんいることが、まちづくりの原動力だと改めて感じ入ったのです。



すごい数の懐かしグッズ。  
全て地元の方のコレクションだとか

## アルパック(株)地域計画建築研究所

<http://www.arpak.co.jp> E-mail [info@arpak.co.jp](mailto:info@arpak.co.jp)

本 社

京都事務所 〒600-8007 京都市下京区四条通り高倉西入立売西町 82  
大阪事務所 〒540-0001 大阪市中央区城見 1-4-70 住友生命 OBP プラザビル 15F  
名古屋事務所 〒460-0003 名古屋市中区錦 1-19-24 名古屋第一ビル 6F  
東京事務所 〒160-0001 東京都新宿区片町 1-20 萩原ビル 3F  
九州事務所 (株)よかネット 〒810-0802 福岡市博多区中洲中島町 3-8 福岡パールビル 8F

TEL(075)221-5132 FAX(075)256-1764  
TEL(06)6942-5732 FAX(06)6941-7478  
TEL(052)202-1411 FAX(052)220-3760  
TEL(03)3226-9133 FAX(03)3226-9560  
FTel(092)283-2121 FAX(092)283-2128